



ルールとマナーを守る 12 番目の選手

副校長 細井 宏一

6月4日（火）、サッカーワールドカップ最終予選、日本代表はオーストラリア代表と対戦して引き分け、見事、ワールドカップ出場が決まりました。

その晩、日本中が喜びにわいていました。ニュースで特に取り上げられていたのが渋谷駅前スクランブル交差点の様子です。サポーターが繰り出してハイタッチをして盛り上がる様子と、混乱が起きないように警察・機動隊の方が整理している様子が映し出されていました。

その中で、次のような機動隊の方の素敵な話があったことがニュースで報じられていました。交差点に集まるサポーターに呼びかける機動隊員の方の話だそうです。

「サポーターの皆さんは12番目の選手です。12番目の選手のみなさん、ルールとマナーを守ってフェアプレーで今日の喜びを分かち合いましょう。皆さんのご協力をお願いします」

私がかつて、UAE（アラブ首長国連邦）のアブダビに赴任していたとき、UAEのチームが「ガルフカップ」という中東諸国の大会で優勝した時がありました。その時には、街中が同じように喜びにわきました。クラクションが真夜中まで鳴り響き、人々は車のサンルーフから身を乗り出して旗をふり、交差点はたいへんな混乱でした。私は車で帰宅しようとしていましたが、なかなか進まなくてたいへん困りました。警察もいましたが、たいして整理しません。

私は、街中が喜びにわいているのだと感じ、このようなときには、堅苦しいことはいわないで皆で喜び合うことが認められているのだなと思ったものです。その熱気に圧倒され、これはこれでいいものだなと思いました。これが世界標準なのだろうとも感じました。（違うかもしれませんが…）

日本の今回は、どうだったのでしょうか。私は、渋谷に行った訳ではないので、詳しくはわかりませんが、報道によると概ね大きな混乱はなく、信号が赤になると道路を開けて交通できていたそうです。（交差点の隣のところ多少混乱はあったようですが…）機動隊の方の活躍もあり、また、集ったサポーターの方の協力もあり、このようにできたのだと思います。

私が言うのもおこがましいことなのですが、なぜかホッとしました。その方が自分は安心して喜べます。自分は日本人なのだなと思います。（もちろんUAEもよいのです…）

このような、一般的に日本人の特色といわれている、「勤勉で規律正しく、ルール・マナー・約束を守っていく」姿勢は、世界に誇れる素晴らしいものであると思うのです。グローバル時代を迎えても、このような日本のよさは自信をもつべきで、維持していきたいことだと思います。そのことの上に、世界に通用するスキルを身につける、それが世界から尊敬される存在となるのではないのでしょうか。

「こんないい日におまわりさんも怒りたくありません。皆さんは12番目の選手です。日本代表はルールとマナーを守るフェアプレーのチームとして有名です。12番目の選手である皆さん、ルールを守って、おまわりさんからのお願いです」

「皆さんが交通ルールを無視していると、おまわりさんからイエローカードが出るかもしれません。目の前のおまわりさん。皆さんが憎くてやっているわけではありません。心の中では日本代表のW杯出場を喜んでいるのです。どうか皆さん、おまわりさんの言うことを聞いてください」

子どもたちには、機動隊の方がいらっしゃらなくても、ルールとマナーを守って、周りの人のことを考えて、主体的で思いやりのある行動ができる、そんな人に育ってほしいと願っています。